

日本の都・東京 季節感あふれる列島、共生・継承の精神いかし次世代価値創生

## 第2部 超都市地域・東京 楽しく、クリエイティブに地域創生

～知識・情報等の活用による文化的魅力をもった知的価値の創造（その1）～

東京藝術大学美術学部建築科 講師 博士(工学) 河村 茂

東京の次世代の都市構造イメージを描き、地域のまちづくりを進めていく上で留意すべきこと。

### 1. 日本の国土と社会の変化

#### (1) 全国の都市化と日本の東京化

我が国は、科学技術や経済の発展をうけ順次、動脈系としての道路・鉄道・航空等の施設、また神経系としての情報・通信施設が、地域により密度の濃淡はあるものの、全国をくまなくネットワークするようになってきた。

そうした動きをふまえ都市東京を機能面から捉えると、東京圏が全国に向け拡大していることがわかる。**社会制度**と**社会資本**を共有し、通勤や観光等で日帰りできる範囲を一体の都市と呼ぶならば、新幹線利用による名古屋や大阪圏、飛行機の利用による福岡や札幌圏は、非日常的な要素は残るが東京と一体化しつつある地域と捉えられる。

**交通・輸送**の面だけでなく、**情報・通信**の面からみると、これらの都市圏だけでなく山間部等の地方圏も含め、東京圏に組み込まれつつあるといえる。これら地方は、東京と同じ**知識・情報**を共有し、アマゾン等を介し宅配便などを使えば望む物資も速やかに届けられる。

このような感覚で日本を捉えると、**経済・文化**中枢としての東京の都市機能の広がり近年、凄まじい。そう遠くない日に**リニア新幹線**が列島に整備されていくと一体化が進み、名古屋・大阪圏は日常的にも東京のサブセンター、インダストリアルゾーン、カルチャーゾーンとなる。



リニア新幹線



日本



スマートフォン

これ即ち、**日本の都市・東京化**である。その中枢を担う東京は、全体的統制を行う心臓部、頭脳部として、また各地方・地域は大小の都市が圏域毎の経営を担い相互に連携、全国に広がり

「地方創生」支援プロジェクト

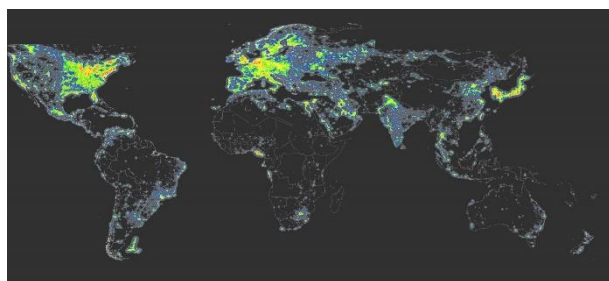


つつある実態上の都市東京を、機能面で分担し動かしていくことになる。今後、リニア新幹線の整備が進むと、そうした状況がさらに顕在化してこよう。

日本は国土の2/3が山地で急峻、山岳型の列島を形成、平地は沿岸部に沿って細く連なる地形から、**社会インフラは海岸沿いや山間に線状に整備され網状に都市軸を形成**、これに都市機能が張り付く形で広がっているため、人や物資の移動効率は良く人々の交流にも大変都合が良い。

アメリカのティモシー・ギルデンが、衛星写真を用いて明らかにした夜間における光量集中地域、ここは地球の富が集まる「メガ地域」と称され、イノベーションの起こる可能性が高い地域といわれている。この世界に40あるメガ地域の中で、広域東京圏は生産額第1位と見積もられ、2兆5千億ドルのLRP(光量から見る地域生産額)があるとされている。広域東京圏は、日々発展を続けており、リニア新幹線が完成すれば名古屋・大阪圏(メガ地域として世界第5位)も広域東京圏に組み込まれ、生産額第2位のボストンからワシントンにかけてのメガ地域を大きく引き離し、**スーパーメガ地域(超大都市圏)**を形成するようになる。このことは日本が実態面において徐々に東京となっていく、そんな方向に歩みを進めていることを意味する。

グローバル化の進展により国境の垣根が低くなり、近代工業社会で隆盛をみた国家の機能が弱まっていくと、これに代わってメガ地域が世界の経済社会を主導するようになるといわれている。日本の場合は、国土が列島を成していることから、これらを橋とトンネルそして空港で結ぶと国土全体が東京をエンジンとする、一体的な経済社会を形成するようになる。これを機能面からみると、**日本⇔都市・東京**ととらえられる。



世界のメガ地域 (光量集中地域)



大陸から望む日本のメガ地域

今後、都市・東京の整備を考えると、「日本の都市・東京化」という視点をもって取り組むことが重要となる。即ち、東京の都市構造を考えるにあたっては、23特別区とか、東京都、東京大都市圏又首都圏といった範疇で捉えるのではなく、名古屋や大阪等も視野に入れ、必要に応じて九州や北海道等も視野に入れて、取り組む必要があるということである。実際、人や物また資金や情報は日々全国を駆け巡っており、日本の中心・東京市場には毎日、人や物等の出入りが絶えない。もちろん情報は全国といわず、世界中でほぼ瞬時に共有できるようになっている。

従って、都市・東京という場合、東京の都心部や近隣の郊外部までをイメージするのではなく、全国の関係する市町村を頭に思い描いて、その都市構造を構想する必要があるということである。具体には、東京の奥座敷、熱海や湯河原、箱根の癒しのゾーン、群馬や福島など水やエ

「地方創生」支援プロジェクト



エネルギー、野菜などの供給ゾーン、山梨や長野など果樹の供給・移住ゾーン、名古屋や大阪などのサブ・ビジネスセンター&インダストリアルゾーン、京都など伝統文化ゾーン、四国の山間部などのテレワークスポットなどをイメージし、東京の都市構造を捉えるということである。

## (2) 地球社会の変化と将来の見通し

さて、昨今、我々が暮らす近代社会そのものが、時代の転換点にあるといわれている。しかし、その方向が定まらず社会は行きつ戻りつし、停滞しているようにもみえる。だが多くの識者は、現代は次なる文明の創生に向け、その準備段階にあるとみているようである。それでは今後どのような方向に変化していくのであろうか、ここでは都市・東京（即ち、日本）の将来都市像を描くにあたり、社会変化の方向を人類文明や、これまでの都市・東京の発展の軌跡に求め、そのベクトル性とサイクル性に留意し、将来の方向を大きく俯瞰し描いてみることにする。まずは、**ベクトル的な動き**であるが、地球社会の発展の動きを概括的に整理すると、表1のようになる。

即ち、人類は、原始自然を舞台とした狩猟・採取の自然社会では、本源的な「**生理的欲求**」に対応するため、地域を漂流する民としてのライフスタイルを取り、道具を発明することで食等の獲得を容易にした。この時期の暮らしの中心テーマは、「**生存**」である。その後、「**農業革命**」により農耕技術が開発され、社会集団の組織化も進み人々は集落を形成、土地に定着し水利を確保したり協働で灌漑施設を設けるなどして、食や住の安定化を図った。しかし、食糧の生産性が上がり余剰が出てくると、人口が増加する一方で、これを略奪するものも現れ争い事が多くなる。そこで人々は生命と財産を護る必要から、「**安全の欲求**」が高まった。農業社会においては肥沃なアジアの大地を中心に生産力が高まり、特産品など物産の交換・交易が盛んになる。しかし、宗教・政治上の対立からアジアへの交易路を塞がれた欧州では、宗教・政治・経済等々、社会の様々な側面で変革が起こり、**近代社会**(民主化、産業化、機械化)の扉が開かれていく。

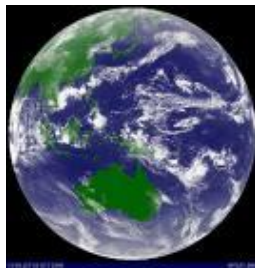
イギリスは、そうした動きの中、いち早く産業革命を成し遂げ、機械化（人間の手と足等の機能の強化）を図り物品の大量生産に成功、そうして得た製品を世界に広く流通させ、人々の暮らしの利便性を高め豊かな生活を実現した。この工業社会をリードした価値概念は「**経済効率性**」である。この時代、人々は資源や市場を求め、活動領域を世界へと広げた。その過程で、他国の人々と紛争になり調整が必要な場面も多々出現した。そうした時、人々の「**親和の欲求**」をうけ、紛争調整の役割を担ったのが、各国政府やその連合組織である。この時代、人々は、一定の組織や陣営に属することで協調し、社会の**平和と安定**そして**便利で豊かな生活**の実現に努めた。

「地方創生」支援プロジェクト



表1 地球社会発展の軌跡 目的・理念等の変遷

社会形態	自然社会	農業社会	工業社会	知識情報社会
技術革新 (その手段)	道具の発明	農業革命 (協働化)	産業革命 (機械化)	IT革命 (情報化)
生活の様態と 産業の主題 (社会現象)	移動・ 狩猟採取	定着・ 米麦づくり (定住化現象)	流動・物づくり (モーターゼーション)	選択・事づくり (コンピュータゼーション)
暮らしの理念 (目標)	生存 (自立)	平和 (安定)	便利 (効率)	楽しさ (満足)
活動の単位	家族・部族	村落・王家	国家、地域連合	個人、(地球)
中心となる 社会的欲求 (その目的)	生理的欲求 (衣食住の確保)	安全の欲求 (生命と財産の 保護)	親和の欲求 (所 属・同盟による互 恵、富の増大)	自我と自己実現の 欲求 (存在認知、文 化創造)



地球



狩猟採取そして農耕へ



農耕



近代的な工場



規格大量生産



超高層ビルと高速道路

そうして今日、先進諸国においては近代化目標を達成、その果実を味わう成熟期に入っている。発展途上の国々においても、先進諸国を追うようにして、順次、工業化を進め成長拡大の時代に入っており、世界は全体として物的豊かさを増している。

さて、人間社会の大きな動きを捉える上で、もう一つ大事な**サイクル的な動き**を紹介しよう。ここでは身近な事例として、農業社会と工業社会という違いはあるが、日本の首都、江戸・東

「地方創生」支援プロジェクト



京の都市づくりを取り上げる。表2は、江戸と東京の都市づくりの動きを、発展ステージ毎に整理したものである。表から読み取れることは、近世封建社会の江戸と近代民主主義社会の東京とでは、政治社会体制に違いはあるが、それぞれの社会ともに**創成期**、**成長期**と順を追って推移し、それぞれのステージ毎に同じような都市態様を示し、**成熟期**へと至っていることである。このサイクル的な社会の動きの中から、今日の近代工業社会の成熟期の具体的なイメージを描こうとすると、近世江戸の成熟期が参考になる。確かにそうした目で見ると、現在の東京は江戸の成熟期(明和~天保)を代表する文化文政期に、大変よく似た状況を呈している。

### ○潮流の変化、大波小波

さて、問題は、そうしたベクトル的な動き(大波)と、サイクル的な動き(小波)の先である。ここでは人間社会の発展の方向を展望するにあたり、**マズローの欲求段階説**を絡めてみることにする。この説によると、人間社会は今日、欲求高次化ピラミッドの第三段階にあたる「親和の欲求(所属と愛の欲求)」レベル(人々は物的豊かさや利便性の確保に向け、個性を抑え産業化された社会活動に参画、国等に属し他と同盟を結ぶことで、安全で円滑な経済活動を確保)から、「**自我の欲求**」や「**自己実現の欲求**」へと、ステップアップする過程にあると捉えられる。

「地方創生」支援プロジェクト



表2 江戸・東京の都市づくりの相似性

区分	創成期	成長期	成熟期
人々の関心	政治刷新	経済発展	文化交流
統治のテーマ	国家(体制)防衛	産業(活動)隆盛	生活(環境)充実
行動基準	安定	効率	満足
都市づくりの目標	安全の確保 威信の確立	機能の整備 施設の建設	環境の維持 景観の形成
都市の態様	建設・改造	成長拡大	成熟
都市づくりの動き	近世 (慶長～慶安) 防衛都市 ・江戸城築造 ・神田上水建設 ・天下普請<城下町の町割、堀・弁形・木戸の整備> ・封建都市の建設 ・明暦の大火	(慶安～明和) 消費都市化 ・武家屋敷の機能分化(上屋敷、中屋敷、下屋敷) ・河川・運河網整備と架橋 ・道路拡幅、建物防火造化 ・市街地開発<江東、青山、麻布、牛込等> ・大江戸の形成 ・目黒行人坂の火事	(明和～天保) 祝祭都市化 ・花木づくり、自然共生、循環型まちづくり ・街並みの整備(軒高制限) ・寺子屋、盛り場の隆盛 ・まちの複合化(表通り大店、裏長屋) ・寺社詣、伊勢講 ・尾張家戸山山荘(箱根・小田原を模した庭園)
	近代 (明治～大正) 帝都 ・霞ヶ関官庁街建設 ・鉄道建設 ・市区改正<近代水道、路面電車、下水道、公園の整備> ・近代都市への改造 ・関東大震災	(大正～昭和) 産業都市化 ・市街の機能分化、建築の用途純化(住、商、工) ・鉄道、高速道路網の整備 ・区画整理、建物不燃化 ・都市開発<副都心・流通センター、住宅・工業都市> ・東京大都市圏の形成 ・東京大空襲	(昭和～平成) ・緑化推進、環境共生 ・景観まちづくりの展開(絶対高さ制限など) ・大学の都心回帰、生涯学習の進展 ・複合都市開発の隆盛 ・観光交流のまちづくり ・東京ディズニーランド

「地方創生」支援プロジェクト





マズローの欲求段階説



代替できる作業はロボット化



余暇に自然と交わり楽しむ

### (3) 知識情報社会への歩み

しかし、我が国の実情をみると、明治維新から150年の時が流れ、帝国主義の時代を経て、戦後70年以上の時が過ぎ、目標とした産業社会の建設を成し遂げるが、他の先進諸国が、持続的発展を遂げる中、わが国は、その余韻に浸る間も少なく羅針盤を失い、暗闇の中を漂っているかのようにも見える。一方、発展途上の国々は順次、成長拡大の段階へと歩を進めてきている。

現在は、近代工業社会の成熟期といわれ、人々の関心は「生活」面や「文化」的なものにシフトしている。しかし、時を経て周期的な小波（成熟期）を抜けると、ベクトル的な大波が押し寄せてくるものとみられる。目をこらして今日の日本の状況を見ると、じわじわと既存秩序の崩壊が進行している。ライフスタイルを具現化する住宅を見ても、近代日本を構成してきた書院造りの流れを組む和室は減り、応接間や客間は姿を消し個室化が進んでいる。また、高齢化に伴い、お年寄りはマンション等の小規模な住戸へと転居し、和室に布団の生活からベッド生活へと移っている。家庭をみても他人に迷惑をかけない嘘をついてはいけないという、伝統的に受け継がれてきた親から子への教えも今や弱まってきている。

一方、職場等でも命令一下の規律のとれたジョブ・スタイルは消え、ふわふわとした動きとなっている。そうして時代の変わり目によくみられる大災害が、昨今、よく発生するようになってきた。災害は、わが国だけでなく世界的にも起こっており、地震、津波、台風、豪雨などとして牙をむいている。また、銃撃等による大量殺人や爆弾テロなど人的災害も増え、人々が安全に安心して暮らせる社会の再構築が課題となっている。

社会の価値観や人々の関心が切り替わる、文明や文化の分水嶺においては、旧体制の解体・新体制の創生に伴い、社会に混乱が生じるのは歴史の常である。世界史的にみると1453年のオスマントルコによるビザンチン帝国の崩壊があつて、その後、西欧諸国により近代工業社会が切り開かれた。日本に目を転じてみても、同じ頃に起こった応仁の乱(1467-77)が、日本社会を古代と近代とに分ける分水嶺となっている。

#### ・知識情報社会

工業社会（大量生産大量消費）をリードしてきたフォーディズム（標準化、規格化、部品化、自動化、マ

「地方創生」支援プロジェクト



ニューアル化) が、その役割を終え、今日、日本のトヨタなどは自動車の品質を上げるべく、ボトムアップ方式で継続的な改善改良運動を進め、創意工夫によってCO2の削減など環境貢献や、AI(自動運転化)に取り組んでいる。

英国人、デニス・ガボールは、日本経済が高度成長のピークを迎え、大阪万博を開催した頃に「成熟社会(1972年)」を著し、「社会は経済の量的拡大から生活の質の向上を求めるようになった」とした。その後、先進諸国では人口の減少・安定化、価値観の多様化、欲求の高度化が進んでいった。

さて、その**近代工業社会**であるが、先進諸国は既にその社会目標を達成し、いま曲がり角に来ている。工業社会は、物品を「早く安く大量に供給する」ため、**規格大量生産方式**を採用、材料を機械製作工場のラインに乗せ物品を効率的に生産するため、製品の「**規格化**」、設計の「**標準化**」が図られてきた。もちろんそうした作業を担う労働者も、産業(物づくり)社会の求めにマッチするべく、「**標準的**」な思考と「**画一的**」な行動、そして「**協調的**」な態度が求められ、これと対極にある個性の発揮は厳しく抑制されてきた。

しかし、社会目標を達成した今日の先進諸国においては、**価値観が多様化**し、次なる欲求(自我・自己実現)の充足に向け、**自己の存在**(アイデンティティ)の**認知**や**個性**(個人の能力や感性など)の**発揮**が強く求められるようになり、ようやく近代社会の呪縛から解放されつつある。

## ○文化的魅力、知的価値の創造

この後、工業社会が成熟期を抜け出ると、新しい社会へと入っていくものと考えられる。新しい社会は、知識や情報が糧となって産物や製品、商品やサービスなどに文化的な価値が付与され、その魅力を高めることで経済が回る社会になるといわれている。そうした兆候は昨今の社会の動きの中にも垣間見られる。将来的には、個を確立した多種多様な人々を前提に、相互の多彩な交流から刺激やヒントを得て、知識や経験また情報を活用したり感性を駆使するなどして、文化的魅力をもった知的価値を生む社会へと、シフトしていくものとみられている。

この知識情報社会においては、個々人の**心の満足**が重視され、人々を**楽しく**させる物や事(文化)の創出に力点を置いた、知的価値の創造が求められる社会になるといわれている。

知識情報社会は、クリエイティブな知的活動が文化的付加価値を創出、人それぞれに自分らしく、そして楽しく心地よく暮らしていこうとする社会とみられている。そうした社会を動かす経済活力は、様々な人々との出会いと交流により、ヒントや刺激を受け閃き、それを契機に思考を発展させることで、価値ある文化的な商品・サービスを創み出す、広い意味での文化力ということになる。

これまで農業生産部門においては、発酵、粉化などのスキルを開発することで、米が酒やせんべいに、また麦がビールやパンに変化し、新しい価値が創出されてきたように、工業製品ももっと使いやすく、美しく、そして親しみやすく(手作り感のある)ということに変化を遂げていく。また、商業・サービス(小売販売、飲食、整骨、歯科衛生、ホームヘルパー、ネイルアート、占いなど)も、会話





や仕草など、おもてなしサービスを加えるなどして、楽しく華やいだ雰囲気を生み出すなど、付加価値をつけていくことになる。日本の可愛い文化に例を見るような、そんな**文化スキル**が、農業産品や工業製品だけでなく、商業・サービス分野も含め広い範囲に及び、新たな魅力や価値が付加させていくことになる。

#### ・情報通信革命

確かに、そうした方向を具現化するような動きとして、コンピュータリゼーションの進展や情報通信技術の発展が認められ、ナビゲーション、自動運転、ロボット、人工知能、IoT、また燃料電池や水素エネルギーなど、解放性の高い、いつでもどこでも的、パーソナルな対応技術の開発が進んでいる。また、来たるべき知識情報社会においては、個々人が文化の創造者になっていくといわれ期待されている。具体には、例えば、家庭に埋もれた美味しいレシピ、またファッションや住宅・インテリアにかかる個人のアイデアやデザイン、さらには地元でアイドルを育てたり、自身が参画し疑似体験が楽しめるゲームなど、提案・参加・育成・体験型での生活の充実が、広く社会化していくとみられており、まさに**ビジネスの文化化**を志向している。

そうした社会において個人は、まずは文化の生産者、クリエイターとして、自らが有する感性や創造力を働かせ、様々なアイデアや技術を駆使し、自我・自己実現の欲求の実現を図っていくことになる。また、その成果として文化の消費者達は、魅力的な商品・サービスを楽しむ、生活を楽しみ心の満足度を高め、暮らしを豊かにしていく。今後は各人の個性とか独自性が存分に発揮され、**知性と感性そして技術**を駆使し**魅力的で楽しい物や事**を生み出す、広い意味での文化創造を推進する体制・制度や空間・環境を整備していくことが課題となる。

即ち、これからはクリエイティブに知恵や工夫をめぐらす訓練と、これまで培われてきた持ち前の職人的な技術力に磨きをかけ、芽の出た付加価値に市場性を付与し、「クールジャパン」として魅力的な商品・サービスに仕立て上げ、世界に供給する仕組みづくりが重要となる。

「地方創生」支援プロジェクト





家庭の美味しいレシピのビジネス化



個人アイデアを住まいの形に アイドルを育てる選抜総選挙



感性あふれるアニメーション



思い思いに楽しめる体験型ゲーム

## 2. 日本の文化

現代が、小波としての近代工業社会の成熟期にあるだけでなく、これに続いて大波としての知識情報社会に入る動きが出てきており、その中で「文化」のもつ重要性は順次高まり、知識情報化の進展に伴い文化的魅力・知的価値の生産・消費が、社会の主流になっていくとみられる。そして多種多様な魅力・価値が誕生し、流通し、消費されていくことになる。そうした社会においては、**地域のもつ文化特性、固有な価値**をしっかりと押さえ対応していくことが肝要となる。

そうした次世代に向けた社会変化の方向をふまえると、これからの都市は、基礎構造として世界的に共通する普遍性あるサービスを維持するとともに、その上でその地固有な文化的表現が求められてくる。我が国なら「**日本らしさ**」が感じられる、都市環境の整備が肝要となる。さて、それでは「**日本らしさ**」とは何か？ということである。

### ・世界における日本文化の固有性

世界において一般に認識されている「日本らしさ」とは、①日本文化のDNAともいえるべき**自然崇拜の理念**、②平和につながる村社会を基礎とした「**共生・融合の和の精神**」、そして真や善より美を大切にしたり、世間を意識し自身の見え方や地域文化の継続性を尊び、「**美や魂、伝統の継承**」に価値を見出す、日本人独特の生き方などがあげられる。

「地方創生」支援プロジェクト



## ■日本文化の原点、形成過程、特徴

ここで日本文化形成の原点となる、自然風土とその歴史的過程について整理しておこう。

### (1) 日本の原風景としての自然風土

#### ・地理・地勢

ユーラシア大陸の東端、内海的な日本海を囲むように太平洋に突き出た弧状の列島、強い海流に囲まれ山岳型の地形を有し、山間の河川は急流（水質はよい）でまるで滝のよう、また野は狭く沿岸や山間の斜面地を活用し、里では筍や果実を採取、野で耕作し川や海で漁をする。

#### ・気候の特徴

雨が多く風が強いため、国土やまちは大変綺麗、また適度な日照があるため多種類の草木が繁茂する、さらに、変化の激しい気候（夏に高温多湿、冬に低温低湿）を有し、風景は地域毎に異なり季節毎に劇的に姿を変える、そんなことから人生を四度も楽しむことができる。

#### ・自然の恵みと災い

野や山の木に実が付き、川や海に数多く魚がいることから、大陸から農耕技術が伝わってきて、長いこと自然と共生し狩猟採取の生活を送ることができた。しかし、気温の変化に対しては健康への備えが必要で、時折やってくる、地震、噴火、津波、台風、豪雨、落雷、竜巻などは生存にとって脅威となる。

### (2) 日本文化の歴史的形成過程

さて、日本文化の形成過程であるが、日本の文化は、土地の気候や風土（強い海流に囲まれ山岳型の地形を有する島国で、四季があり、寒暖の差が大きく、湿気が多い）の影響を強く受け形成されている。即ち、古代の日本は、原始自然が強く支配する縄文時代に、厳しくもあり優しい父のような母のような、自然と共生する文化が生まれた。

弥生時代に入り大陸から水稲栽培が伝わると、暫くして生活の安定を求め農耕生活に入るが、協働作業に向け役割分担が必要となり、「協調性」が重視されるようになる。古代には仏教が伝来、各地の豪族間の争いをこえ日本国の一体化がめざされ、十七条の憲法が制定（和の精神）される。また、近世（南蛮人など渡来）においては、植民地化の恐怖を回避すべく鎖国的政策が取られ、「共生文化、和の文化」は、さらに強固となっていった。近代に入ると、生活の利便性が追求され、欧米から産業技術を取り入れ、既存文化と融合させる形で改良改善を重ね、伝統文化を順次ブラッシュアップ、今日につながる日本文化が形成されてきた。

この間、日本は自然が豊かであったため、農耕社会への移行が遅れたり、自然に護られ、外国の侵入に対する脅威は少なく、強大な国家を形成する必要性が弱かったため、地域毎に小さな集団でまとまり、独自の運営を行ってきた伝統がある。

こうした経緯から日本人は、いつの時代も受け身で、「海の彼方から幸せ（新たな文化など）がやってくる」、と考えるようになった。しかし、グローバル化が進む地球社会化の時代、国相互の垣根が低くなり、人や物、金や情報などが激しく行き交うようになると、常に受け身ではいられず、

「地方創生」支援プロジェクト



積極的に打って出なくてはならない状況も生まれている。歴史を振り返ると、日本人は変わらなくてはいけないと悟ると、いち早く行動スタイルを変えられる、そんな変わり身の早さを有していることに、留意する必要がある。

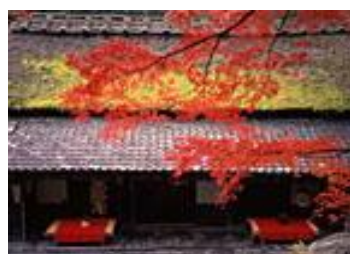
↓日本の四季の変化と伝統文化



春



夏



秋

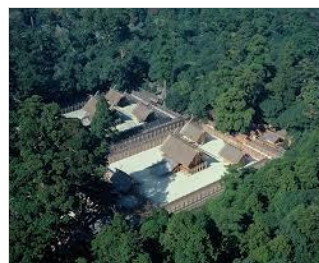


冬



日本人の人生観を表現した宮島

(仮(現世)、空(あの世)を包む中を表現)



型を確立し伝統をつなぐ伊勢神宮

(唯一神創造)

(3) 生活文化面からみた民族的特徴

・馴染みの文化、地と図の調和

山岳型の国土に海が迫り列島を水蒸気が覆う、しっとりした茶や緑の色をした大地、この風景よく見ると多くの起伏や変化がある。こうした地には多少歪んで、ざらざら感のあるものが融和する。また、色彩も基調となる風景が季節ごと、春は草木の「緑」、夏は空や海の「青」、秋は紅葉の「赤、黄色、茶色」、冬は雪や雲の「白」、さらに地域により太平洋側は冬でも青空、日本海側は曇天「灰色」という具合に、時や場所によりその変化に違いがあることから、都市の街並み形成においては、こうした状況をふまえて地に馴染むような図づくりが市民に好まれる。

また、日本の風土は水滴が多く、これが光で屈折し景色が霞んで見えるなど、曖昧さを残しているところから、都市の色彩はベースとなる風土や季節の変化をふまえて、これにあうようモノトーンが基調をなしてきた。

・その他の都市構成上の特徴

小京都・小江戸、〇〇銀座といったように、日本には魅力的なものはまねて取り入れる「見立ての文化」が存在する。また、作り手には、品質を追求しディテールにこだわる「職人文化」が、さらに、寺社など主要建造物は伝統性に留意し、一定の様式を確立し、これを継承する「型の文化」を有している。そうして仮と空そして中の間を動いて暮らす、日本人の精神世界に対



応し、都市空間の構成にあたっては、そうした異なる世界の間を移動するに相応しい、曖昧なゾーンも設けられるなど一定の間が取られている。

## 第2部 参考資料

- アルビン・トフラー：第三の波，日本放送出版協会，1980
- ダニエル・ベル：知識社会の衝撃，(株)TBSブリタニカ，1995
- 河村茂：日本の首都 江戸・東京 都市づくり物語，都政出版社，2001
- 青山やすし：東京都市論，(株)かんき出版，2003
- ダニエル・ピンク、大前研一：ハイ・コンセプト・新しきことを考え出す人の時代，三笠書房，2006
- 梶山寿子：トップ・プロデューサーの仕事術 日経ビジネス人文庫，日本経済新聞出版社，2008
- リチャード・フロリダ：クリエイティブ都市論，ダイヤモンド社，2009
- ウィリアム・バーンスタイン：「豊かさ」の誕生 成長と発展の文化史 日経ビジネス人文庫，日本経済新聞出版社，2015

## 第2部 掲載写真等

- リニア新幹線 <http://www.huffingtonpost.jp/>
- 日本 <https://ord.yahoo.co.jp/>
- スマートフォン <http://kakaku.com/>
- 世界のメガ地域（光量集中地域） <https://www.bing.com/>
- 大陸から望む日本のメガ地域 <http://agora.ex.nii.ac.jp/>
- 地球 <http://images.google.co.jp/>
- 狩猟採取そして農耕へ <http://img03.ti-da.net/>
- 農耕 <https://upload.wikimedia.org/wikipedia/>
- 近代的な工場 <http://pds.exblog.jp/>
- 規格大量生産 <http://kuwarinbouya.versus.jp/>
- 超高層ビルと高速道路 <http://blog.osakanight.com/>
- マズローの欲求段階説 <http://www.brake-kaijo.com/>
- 代替できる作業はロボット化 <https://www.bing.com/>
- 余暇に自然と交わり楽しむ <https://ord.yahoo.co.jp/>
- 家庭の美味しいレシピのビジネス化 <https://www.bing.com/>
- 個人アイデアを住まいの形に <http://plus-a-house.jp/>
- アイドルを育てる選抜総選挙 <http://www.hkt48.jp/>
- 感性あふれるアニメーション <https://www.bing.com/>
- 思い思いに楽しめる体験型ゲーム <https://wayohoo.net/>
- 春 <https://ord.yahoo.co.jp/> 夏 <http://blog.goo.ne.jp/>

「地方創生」支援プロジェクト



秋 <http://ecx.images-amazon.com/>  
冬 <http://guesthouse-takayama.blogspot.jp/>  
日本人の人生観を表現した宮島 <https://ord.yahoo.co.jp/>  
型を確立し伝統をつなぐ伊勢神宮 <http://www.kagojinjacho.or.jp/>  
テロ <https://matome.naver.jp/>  
近代都市ニューヨークと高速道路インターチェンジ <http://image.search.yahoo.co.jp/>  
郊外に開発された住宅地 <http://www.tostem-fc.jp/>  
代官山、都会的な魅力を持つ街並みに穏やかな佇まい <http://d-hillside terrace.com/>  
既成の市街地内に村落的雰囲気を持つ住宅街区 <https://www.bing.com/>  
モンスター台風 <http://blogs.yahoo.co.jp/>  
地震津波 <http://blog.goo.ne.jp/>  
大地震による建物の倒壊 <http://savior-web.sharepoint.com/>  
芝の森 <http://www.nikken.co.jp/>  
市谷の森 <http://www.kumesekkei.co.jp/>  
ロンドン・シティホール(G L A職員 600 人程) <http://1.bp.blogspot.com/>  
エリアマネジメントと活動 <http://tochi.mlit.go.jp/>  
協働での屋根の葺替え <http://blog.livedoor.jp/>  
ワークショップ/風景 <http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>  
芦屋市景観地区に係る定性基準等の事前協議と認定の手続き <http://www.city.ashiya.lg.jp/>  
暮らしの場のアーバンビレッジへの再編事例 <https://www.proud-web.jp/>

「地方創生」支援プロジェクト

